

令和 7 年度事業報告

一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構



目 次

令和7年度 事業報告

1 令和7年度 一般報告

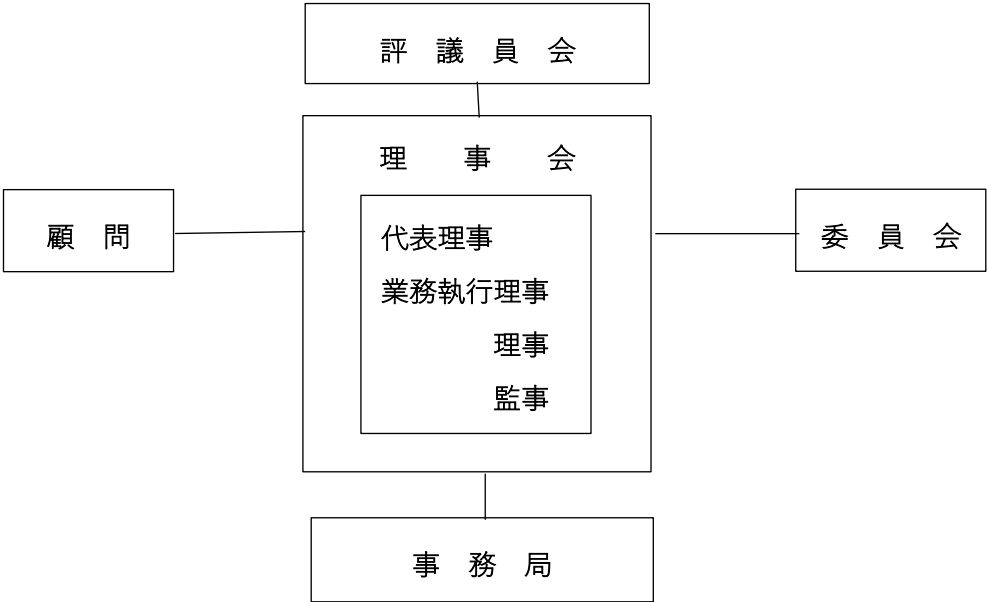
- (1) 組 織（評議員、役員、顧問、委員会、事務局）
- (2) 賛助会員
- (3) 会 議 等
- (4) そ の 他

2 令和7年度 事業報告

- (1) 情報発信・広報に関する事業
- (2) 啓発活動に関する事業
- (3) 防災・伝承ツーリズムに関する事業
- (4) 伝承に関する事業
- (5) その他（受託事業）

1. 令和7年度 一 般 報 告

(1) 組 織



ア 評議員

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
評 議 員	非 常 勤	増 子 次 郎	一般社団法人東北経済連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	藤 崎 三 郎 助	東北六県商工会議所連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	千 葉 嘉 春	東北建設業協会連合会 会長
評 議 員	非 常 勤	渥 美 雅 裕	一般社団法人東北地域づくり協会 理事長

イ 理事・監事

役 職	常勤・非常勤別	氏 名	勤 務 先 及 び 役 職 名
代 表 理 事	非 常 勤	今 村 文 彦	東北大学 副学長
業務執行理事	常 勤	原 田 吉 信	一般財団法人 3.11 伝承ロード推進機構
理 事	非 常 勤	涌 井 史 郎	東京都市大学 特別教授
理 事	非 常 勤	中 村 智 行	青森中央学院大学 准教授
理 事	非 常 勤	南 正 昭	岩手大学 教授
理 事	非 常 勤	小 沢 喜 仁	福島大学 教授
理 事	非 常 勤	徳 山 日 出 男	政策研究大学院大学 客員教授
理 事	非 常 勤	紺 野 純 一	一般社団法人東北観光推進機構 理事長
理 事	非 常 勤	濱 田 正 隆	一般社団法人日本旅行業協会東北支部長
理 事	非 常 勤	新 屋 孝 文	青森県県土整備部長
理 事	非 常 勤	大 畑 光 宏	岩手県復興局長
理 事	非 常 勤	高 橋 義 広	宮城県復興・危機管理部長
理 事	非 常 勤	五 月 女 有 良	福島県企画調整部長
理 事	非 常 勤	筒 井 幸 子	仙台市まちづくり政策局長
監 事	非 常 勤	岡 井 覚 一 郎	日本政策投資銀行 東北支店長
監 事	非 常 勤	須 藤 宣 毅	河北新報社教育・防災連携室 次長

ウ 顧 問

役 職	職 名	氏 名
顧 問	青 森 県 知 事	宮 下 宗 一 郎
顧 問	岩 手 県 知 事	達 増 拓 也
顧 問	宮 城 県 知 事	村 井 嘉 浩
顧 問	秋 田 県 知 事	佐 竹 敬 久
顧 問	山 形 県 知 事	吉 村 美 栄 子
顧 問	福 島 県 知 事	内 堀 雅 雄
顧 問	仙 台 市 長	郡 和 子
顧 問	学 都 仙 台 コ ン ソ ー シ ャ ム 会 長	鈴 木 道 子

顧問	東北地方整備局長	西村拓
顧問	東北運輸局長	吉田昭二

エ 委員会

伝承ロードアドバイザー委員会		
役職	職名	氏名
委員長	東北大学災害科学国際研究所 准教授	佐藤 翔輔
委員	一般社団法人東北観光推進機構 理事長	紺野 純一
委員	一般社団法人日本旅行業協会 東北支部長	増子 敦
委員	青森県県土整備部 都市計画課長	垂井 祐司
委員	岩手県復興防災部 復興推進課総括課長	昆野 岳晴
委員	宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課長	乗田 晶子
委員	福島県土木部 土木企画課長	中村 一彦
委員	仙台市まちづくり政策局 震災復興×リアル事業担当課長	佐藤 陽子
委員	東北地方整備局 企画部長	宮本 健也
委員	東北運輸局 観光部長	長澤 秀博

オ 事務局

住所	〒980-0014 仙台市青葉区本町三丁目 2-26
人員	業務執行理事 1 名、職員 4 名 計 5 名

(2) 賛助会員

区分	会 員 数			口 数		
	令和 7 年度	令和 6 年度	増減	令和 7 年度	令和 6 年度	増減
法人会員	53	50	増 3	76	70	増 6
個人会員	151	106	増 45	292	208	増 84

(3) 会議

ア 評議員会

区 分	開催日、開催場所	議事の内容
第 1 回臨時	令和 7 年 5 月 9 日 (みなし評議員会)	【第 1 号議案】理事の選任 理事 4 名の更新手続き
第 1 回定時	令和 7 年 6 月 16 日 ホテルモントレ仙台	【第 1 号報告】令和 6 年度 事業報告 (1) 一般報告 (2) 事業報告 【第 2 号報告】令和 7 年度 事業計画及び収支予算書 (1) 事業計画 (2) 収支予算書 【第 3 号報告】令和 7 年度 異動に伴う理事・監事の選任 【第 1 号議案】令和 6 年度 計算書類の件について (1) 財務諸表 (2) 監査報告 【第 2 号議案】令和 7 年度役員（理事・監事）選任の件
第 2 回臨時	令和 7 年 7 月 28 日 (みなし評議員会)	【第 1 号議案】理事の選任 理事 1 名の更新手続き
第 3 回臨時	令和 7 年 10 月 20 日 (みなし評議員会)	【第 1 号議案】理事の選任 理事 1 名の更新手続き

イ 理事会

区 分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 7 年 6 月 16 日 ホテルモントレ仙台	【第 1 号議案】令和 6 年度事業報告及び計算書類の件 【第 1 号報告】異動に伴う理事・監事後任の選任 【第 2 号報告】顧問の委嘱

第 2 回	令和 8 年 2 月 2 0 日 ハーネル仙台	【第 1 号議案】 令和 8 年度事業計画 【第 2 号議案】 令和 8 年度収支予算書 【報告事項】 財政基盤
-------	----------------------------	--

ウ 委員会等

1. 伝承ロードアドバイザー委員会

区分	開催日、開催場所	議 事 の 内 容
第 1 回	令和 7 年 5 月 1 2 日 ハーネル仙台	(1) 伝承ロード研修会参加者アンケート調査結果 (2) 震災伝承施設の認知度調査 (3) 震災伝承施設を照らす会 (4) デジタルアーカイブ事業 (5) 震災伝承の取り組みについて (6) 東北の観光の現状について (7) その他（情報提供）

2. その他

機構が主催した主な会議やイベントは下記のとおり。

開催日、開催場所	取組項目	概 要 等
1) 令和 7 年 8 月 30 日 東京臨海広域防災公園 「そなエリア東京」	『「震災伝承施設」深化の会』の開催 参加者数：197 名 (オンライン 92 名)	概要：首都圏向けの情報発信を強化する観点から 3.11 伝承ロードを構成する主要な伝承施設の活動紹介と有識者との意見交換を行った。
2) 令和 7 年 10 月 28 日 ハーネル仙台	令和 7 年度インフラ語り部説明会 参加者：語り部 25 名 来賓：国土交通省東北地方整備局 中尾企画部長	概要：建設関係業務に従事した役所や企業の OB を対象に東日本大震災の復旧・復興等における貴重な体験や知見を語り継ぐインフラ語り部の確保を目的とした説明会 ○説明事項 ・伝承ロード研修会アンケート結果報告について ・語り部（インフラ部門）の活動について

3) 令和7年11月17日 ハーネル仙台「松島A」	事業懇談会 参加者：43名	概要：寄付者・賛助会員向けの 事業説明会 ・令和6年度事業報告について ・東日本大震災に関するWeb アンケート結果について ・令和7年度の主な事業について
4) 令和8年2月4日 キョウエイグループ・ テルサホール「FT ホール」	防災・伝承セミナーin 福島 参加者：約200名	概要： ・開会挨拶：福島県知事内堀雅雄 ・基調講演： 矢澤敏幸（福島県土木部長） テーマ：「東日本大震災、原子 力災害からの復興」 ・活動報告 原田吉信業務執行理事 ・パネルディスカッション テーマ：「福島県における東日本 大震災の対応」 コーディネーター岩城一郎 （日本大学工学部教授） パネリスト中村一彦（福島県 土木部土木企画課長） 佐久間哲男（（株）佐久間組代 表取締役） 石川幸慶（石川建設工業（株）専 務取締役） 秋山隆（福浜大一建設（株）執行 役員土木部長）
5) 令和7年2月10日 コンヤスビル会議室	伝承ツーリズム連絡会の開催 参加者数15名	概要：仙台市内にある旅行業者 との意見交換会 ・伝承ロード研修会参加者アン ケート調査結果報告 ・台南市教育関係者アンケート 結果概要報告

(4) その他(寄付金の受入について)

次の法人等から寄付金によるご支援をいただきました。

令和7年度	主な法人等
寄付金	(一社)日本橋梁建設業協会 外12法人(団体を含む)
	ヤフーネット募金 他

2 令和7年度 事業報告

目次：項目と内容

P.1

項目	活動内容	頁
(1) 情報発信・広報	イ) デジタル基盤（ホームページ、Facebookなど）	P.2
	ロ) 伝承ロードマップ・イラストマップ	P.3
	ハ) 機関誌、メールマガジン	P.4
	ニ) ラジオによる広報	P.5
(2) 啓発活動	イ) 防災・伝承セミナー	P.6
	ロ) パネル展	P.7
	ハ) イベント等のブース展示	P.8
	ニ) みやぎ災害伝承ポスターコンクール	P.9
	ホ) 東日本大震災に関するWebアンケート結果	P.10
	ヘ) 「『震災伝承施設』深化の会」の開催	P.11
(3) 防災・伝承ツーリズム	イ) 企業・団体向けの3.11伝承ロード研修会	P.12
	ロ) 5周年記念メモリアルツアー	P.13
	ハ) 旅行業者との連携（伝承ツーリズム連絡会）	P.14
	ニ) 台湾における訪日プロモーション事業	P.15
(4) 伝承に係る事業	イ) 小中学校向け防災学習（出前授業）	P.16
	ロ) インフラ語り部	P.17
(5) その他(受託事業)	イ) 仙台湾岸エリア復興ツーリズム	P.18
	ロ) 震災復興インフラ新図録	P.19

イ

デジタル基盤 (HPやFacebookなど)

<https://www.311densho.or.jp/>

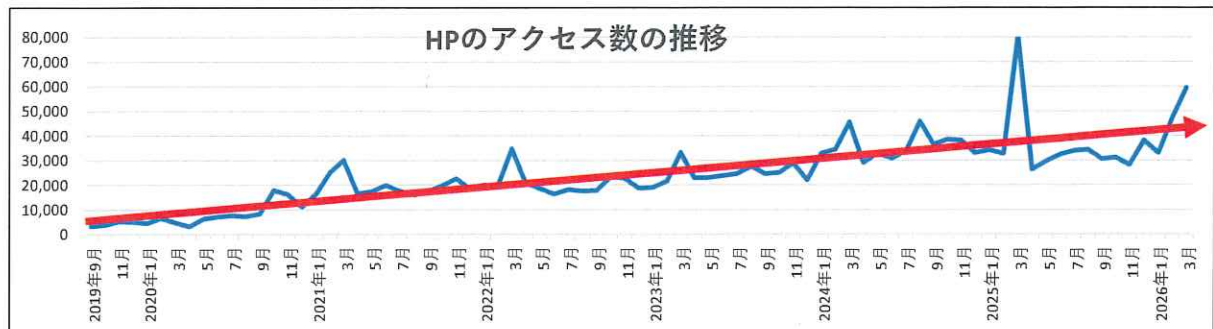
【概要】組織や事業に対する認知拡大と問い合わせ、各種応募等の行動誘導に向けた情報提供と、Webサイトの構築と維持更新

【ホームページの内容】

1. 組織案内
2. 活動等のお知らせや話題提供(お知らせ)
3. 活動状況の紹介 (「3.11伝承ロード」の説明、震災伝承施設の紹介、防災・伝承セミナーの開催結果、伝承ロード研修会の案内、映像アーカイブ事業の動画紹介、ラジオ放送音声アーカイブ、制作動画の紹介、機関誌バックナンバー、受託事業紹介、他)
4. フェイスブックによる情報発信



【当機構ホームページのトップページ】



発足時(2019/9)は3千件だったが、直近では5万件を越えるアクセス数となっている。アクセス数は順調な伸びを示している。(2022年からクローラーのアクセス件数は除く)

ロ

伝承ロードマップ・イラストマップ

【伝承ロードマップの更新】



○伝承ロードマップは、被災地にある第3分類の震災伝承施設を網羅したベースマップ。主要な道路や交通機関を網羅し、施設へのアクセス性を考慮したマップで、裏面には各施設の特徴と連絡先が記載している。多言語版として英語版と中国語(繁体字)版がある。震災伝承施設のネットワーク化に貢献している。

【イラストマップの更新】



○イラストマップは、県別に震災伝承施設と主な観光施設・食・イベント等の主要な施設をイラストで表現し、被災地へのアクセス機会の増大と滞在期間の拡大を狙い。多言語版として英語版と中国語(繁体字)版がある。

■機関誌「伝承ロード『縁』」の発行

「人と人を繋ぎ、被災地を結ぶ。」をコンセプトに、伝承は人から人へ伝える「縁」が大切。機構が目指す人の縁を中心に据えて、震災伝承活動を紹介する機関誌。年4回発行。設立5周年を記念し、職員自らが知名度の低い第1・2分類の震災伝承施設取材し、紀行文を掲載する取り組みを、令和6年9月発行の12号からスタート。

- 震災伝承施設や語り部活動等の人に着目し、その背景や動機も含めて紹介、自治体における復興のまちづくりや被災地の拠点なども紹介。当機構の活動状況も掲載。読んでいただける機関誌を目指す。広告掲載により発行コストの軽減を図る。バックナンバーはHPに掲載。令和3年12月の第1号から18号まで発刊

■メールマガジンの配信（月1回程度）

活動をタイムリーに紹介。

- 活動紹介として、伝承ロード研修会、防災・伝承セミナー、パネル展、アーカイブ映像認定式、会議や委員会開催状況などを、震災伝承施設、賛助会員、寄付者などに配信。令和3年12月の第1号から毎月配信し、これまで第54号配信。



伝承ロード「縁」（第18号）

（概要）

12ページ、3千部、配布先：震災伝承施設、賛助会員、寄付者、道の駅、自治体等に配布

二 ラジオによる広報（ラジオ番組「15年の証言-道をつないだ人たち」の放送）

【概要】東日本大震災の風化の防止及び防災力の向上を目的に、毎年テーマを変えながら被災4県（青森、岩手、宮城、福島）のラジオのリスナー向けに東日本大震災の真実や教訓を伝える15分番組を制作。令和3年度からスタート。震災後の復旧・復興工事における地元建設業者の体験・苦労をナビゲータとの対話形式で振り返り、地元建設業者の社会貢献について明らかにする。

- 令和3年度：震災伝承施設関係者の被災体験
- 令和4年度：一般市民が知らない企業・団体の震災活動
- 令和5年度：建設業者の社会貢献を明らかにした震災対応活動
- 令和6年度：地元建設業者が体験・苦労した震災対応活動
- 令和7年度：くしの歯作戦を支えた建設業者の社会貢献

- (1) 放送局：被災4県の青森放送、岩手放送、東北放送、ラジオ福島
(2) 取材・放送企業

第1回	岩手県宮古市「三好建設(株)」	2月2週
第2回	宮城県石巻市「若生工業(株)」	2月3週
第3回	宮城県仙台市「大成ロテック(株)」	2月4週
第4回	岩手県大船渡市「(株)小松組」	3月1週
第5回	宮城県仙台市「(株)深松組」	3月2週

ラジオ放送の音声データは、ホームページで音声アーカイブとして令和3年度から公開



左の画像はR7年度の収録状況：左から三好建設(株)、若生工業(株)、(株)深松組

【目的】地域における災害や伝承の課題をテーマとしたセミナー。地域の防災力の向上と「3.11伝承ロード」の周知と理解促進を図る。令和2年度から毎年、4県・仙台市で持ち回りで開催。

■防災・伝承セミナー in 福島

○テーマ：「震災時における建設業の活動を振り返る」

～東日本大震災から15年、知られざる建設業の活躍を訴える～

○開催日：2026年2月4日(水)13：30～15：30

○会場：キョウワグループ・テルサホール「FTホール」
(福島県福島市)

○参加者：会場約200名



【矢澤敏幸福島県土木部長】



【活動報告の様子】



【パネルディスカッション状況】

プログラム

【あいさつ】福島県知事 内堀雅雄 氏

【基調講演】福島県土木部長 矢澤敏幸 氏

テーマ：東日本大震災、原子力災害からの復興

【活動報告】3.11伝承ロード推進機構 原田吉信
タイトル：「見せます建設業の震災対応」

～映像アーカイブによる建設業者の活躍～

【パネルディスカッション】

テーマ：福島県における東日本大震災の対応
～地震・津波・原子力災害の中で苦悩した建設業～

・コーディネーター

日本大学工学部教授 岩城一郎氏

・パネリスト

福島県土木部土木企画課長 中村一彦氏

(株)佐久間組 代表取締役 佐久間哲男氏

石川建設工業(株)専務取締役 石川幸慶氏

福浜大一建設(株)執行役員土木部長 秋山隆氏

■多くの方に、震災の記憶や記録を後世に伝えるために、東日本大震災の記録や教訓などを紹介するパネル展を毎年、東北各地で開催。

■東北地方整備局や(一社)東北地域づくり協会などの協力を得て、道路啓開、津波排水除去、港の航路啓開など、復旧・復興に至る建設業界の活動のパネルや、被災前・被災直後・復興10年の航空写真等のパネルを展示するとともに、当機構の活動や震災伝承施設の紹介するパネルなども展示。また、施設の協力を得て、発災当時の建設業界の活動をアーカイブ映像により紹介している。

【令和7年度 展示施設一覧】

	開催日	開催施設名	所在地	見学者数
1	4/9～5/6	せんだい3.11メモリアル交流館	仙台市	4,051人
2	5/9～5/22	郡山市民プラザギャラリー	福島県郡山市	155人 (推計)
3	5/22～6/4	須賀川市市民交流センター	福島県須賀川市	5,000人 (推計)
4	8/20～8/28	宮古市民交流センター	岩手県宮古市	450人 (推計)
5	9/16～9/30	酒田駅前交流拠点施設ミライニ	山形県酒田市	592人 (推計)
6	3/6～3/13	山形県郷土館「文翔館」	山形市	2,530人 (推計)



【せんだい3.11メモリアル交流館展示状況】

【令和6年度の実績】

	主な会場	開催日
1	せんだい3.11メモリアル交流館	4/26～5/30
2	山元町防災拠点・山下地域交流センター	6/7～21
3	ユートリー (VISIT八戸)	7/30～8/7
4	種差海岸インフォメーションセンター	8/8～16
5	福島県立図書館	9/19～10/2
6	山形県文翔館	3/7～13

■第13回「震災対策技術展」東北
～自然災害対策技術展～

- ・日程：2025年10月8～9日
- ・会場：AERビル5F（仙台市中小企業活性化センター）
- ・災害に強いまちづくりを推進する立場から、災害対策技術や製品、防災・減災の取り組みなど発信する場として開催
- ・企業、団体、高校、NPO、報道機関など40団体がブース出展。
- ・来場者 2,055名



【震災対策技術展：ブース展示の様子】

■仙台防災未来フォーラム2026

- ・日程：2026年3月14日
- ・テーマ「東日本大震災から15年 つなぐ想い、つむぐ未来」
- ・会場：仙台国際センター展示棟、仙臺緑彩館
- ・主催：仙台市
- ・後援：宮城県、東北大学災害科学国際研究所 他
- ・ブース・ポスター展示は115団体・取組
- ・来場者 約 4,900名



【未来フォーラム：ブース展示の案内状況】

宮城県が、過去の災害の記憶と教訓に触れ、災害時に命を守る行動がとれることを目指して、令和4年度から宮城県が主催している災害伝承ポスターコンクール。当機構も震災伝承を推進する立場から協力し、最優秀賞に次ぐ、特別賞（賞状と記念品）を授与している。



【賞状授与の様子】

◇「特別賞」の紹介◇

【小学校低学年の部】
仙台市立市名坂小学校 2年
太田 結葵 さん



【小学校高学年の部】
塩竈市立玉川小学校 5年
渡辺 芳 さん



【中学校の部】
東北学院中学校 3年
菅野 樹 さん



【高校の部】
宮城県富谷高等学校 1年
関 綾香 さん

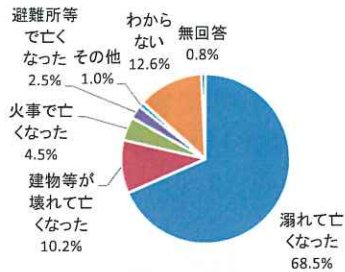


ホ

東日本大震災に関するWebアンケート結果

【概要】東日本大震災に関する認知度や犠牲になった要因、震災伝承施設に関する訪問動機、不満などについて把握するために、Webアンケートを実施

【①首都圏(n=4,745)犠牲者の要因】



【Webアンケート調査実施状況】

- ・調査時期：R7年6月
- ・モニター数 合計n=10,000人 男女同数 (15歳以上～)
- ・首都圏(1都3県:東京都、埼玉・千葉・神奈川 3県)n=5,000人
- ・東北6県(青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 6県)n=5,000人

【③震災伝承施設に対する不満】

【③震災伝承施設に対する不満】		東 北		首 都 圏	
全体	複数回答可	n(1739)	%	n(562)	%
1	アクセスが良くない	234	13.5	134	23.8
2	展示内容がつまらない	82	4.7	30	5.3
3	展示の案内や説明が少ない	133	7.6	70	12.5
4	伝承施設を訪問する事前の情報が少ない	162	9.3	65	11.6
5	学びたいことがなかった	47	2.7	40	7.1
6	学びたいことが学べなかった	45	2.6	43	7.7
7	有料であることや料金が安い	79	4.5	51	9.1
8	周辺に他の観光施設がなかった（遠かった）	127	7.3	64	11.4
9	宿泊施設がなかった（遠かった）	91	5.2	56	10.0
10	展示内容が難しく理解できなかった	33	1.9	27	4.8
11	その他	16	0.9	6	1.1
12	不満に感じたことはない	1128	64.9	281	50.0

【②震災伝承施設に行った動機】

【②震災伝承施設に行った動機】		東 北		首 都 圏	
全体	複数回答可	n(1739)	%	n(562)	%
1	震災学習をしたくて訪問した	511	29.4	257	45.7
2	震災学習ではなく、観光として訪問した	436	25.1	154	27.4
3	友人や家族に誘われて、訪問した	344	19.8	136	24.2
4	友人や家族に誘われ訪問したくなかったが訪問した	71	4.1	56	10.0
5	仕事の都合で訪問した	153	8.8	72	12.8
6	施設の近くまで来たので、ついでに訪問した	610	35.1	130	23.1
7	その他	78	4.5	18	3.2

へ

「『震災伝承施設』深化の会」の開催

【目的】震災伝承施設の伝承活動は、施設毎に様々な特徴があり、パネルや動画、被災遺物の展示、遺構の活用、語り部活動など多岐にわたる。地域の伝承活動が地域に支持され、地域の活性化に繋がる、一段上の活動となるよう、効果的に発信する場を提供し、伝承活動の活性化を図ることである。また、メディアの関心を高め、注目を集めるインパクトの高い取り組みとなるよう、「東京」を会場として「防災の日」の関連する行事として開催した。

【概要】日 時：令和7年8月30日(土) 13:00～15:30

場 所：東京臨海広域防災公園「そなエリア東京」2階レクチャールーム

共 催：東北地方整備局、岩手県、宮城県、福島県

参加者：会場105名、オンライン92名

【内容】伝承施設の活動報告、有識者との意見交換

(1) いのちをつなぐ未来館(釜石市) 河東英宜氏 川崎杏樹氏

(2) 東日本大震災津波伝承館(陸前高田市) 早坂寛氏

(3) 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館(気仙沼市) 熊谷心氏

(4) いわき震災伝承みらい館(いわき市) 高田悟氏

進 行：東北大学災害科学国際研究所 准教授 佐藤翔輔氏

有識者：全国地方新聞社連合会 副会長 菅原智広氏

JR東日本 マーケティング本部くらしづくり・地方創生部門

観光・地域活性化ユニットマネージャー 引地美香氏



【開催状況】

【意見交換】語り部の高齢化や後継者育成、活動を継続するための体制づくりなど、各施設が共通して抱える課題が共有された。また、教育旅行や体験型学習など、次世代への伝承をより深める取組の重要性が確認された。また、来館者の行動変容を生む体験型学習、若年層語り部の育成、多言語・国際発信など、将来を見据えた実務とその課題を発信、共有した。

【事業概要】

企業・団体向けに被災地にある震災伝承施設等を案内する3.11伝承ロード研修会を実施。依頼者の要請に基づき、震災伝承施設だけでなく、被災地の復旧・復興の状況、復興インフラなども案内。企業・団体職員の社員研修や新人研修に活用されている。

【研修のポイント】

1. 沿道の被災・復興状況の説明やビデオにより移動時間を有効に活用。
2. 施設見学には専門のガイドや語り部を配置。
3. 他では見られない行政等の施設見学の手配も可能。
4. 専門家による座学を取り入れ、学びを深めることが可能。

◆令和7年度の実施状況

20回の研修会を実施。昨年度より回数は減少するも満足度は維持。

【前年度との比較】

	令和7年度	令和6年度
実施回数	20回	22回
参加人数	411名(20.6人/回)	433名(19.7人/回)
満足度	88.2%	88.4%
研修行程	日帰り13回、1泊以上7回	日帰り12回、1泊以上10回

注)満足度はアンケート結果による



(石巻市震災遺構大川小学校)



研修会の様子
(東日本大震災津波伝承館)

【概要】機構発足から5周年を迎え、これまで100回近く実施し好評だった研修コンテンツを集めた特別なメモリアルツアーを企画した。ツアーの催行は近畿日本ツーリスト(株)仙台支店が「発足から5周年記念の学びの旅(石巻、女川、東松島)」と称してツアーの商品化と催行を行った。

○催行日: 令和7年10月18日(土) 参加者: 40名 販売: 近畿日本ツーリスト(株)仙台支店

	施設名と説明者
8:30	【出発】 JR仙台駅東口
9:30~9:40	【休憩】 道の駅「上品の郷」
10:00~11:00	【見学】 震災遺構大川小学校 説明: 大川伝承の会 共同代表鈴木典行氏
11:30~12:00	【見学】 出島大橋・出島 橋詰駐車場、出島漁港
12:15~13:15	【昼食・お買い物】 シーパルピア女川 昼食: 海鮮丼
13:15~14:15	【座学】 女川町復興のまちづくり 講師: 女川観光協会 遠藤事務局長 【見学】 震災遺構旧女川交番
15:00~15:30	【見学】 東松島市震災復興伝承館 案内: 東松島SAYS' 山縣嘉恵氏
15:30~16:00	【地域見学】 お佐藤山、ベルトコンベア跡地下通路、野蒜ヶ丘復興団地
17:00	【解散】 仙台駅東口



【石巻市震災遺構大川小学校】



【出島】



【女川まちなか交流館】



【東松島市震災復興伝承館】

- 旅行者が持つ様々なツアーノウハウの入手と、震災伝承施設の観光コンテンツ化に向けて、仙台市内の大手旅行会社支店や地元旅行会社等で構成する「伝承ツーリズム連絡会」を開催。
- 3.11伝承ロード研修会や受託事業等を紹介し、意見交換を実施。
- 台湾プロモーション事業における教育関係者招請事業アンケート結果や「震災伝承施設」深化の会の開催結果も説明
- 旅行会社のツアー商品に対する震災伝承施設の導入や、伝承ロード研修会における旅行者の協力体制構築に貢献。
- 令和7年度は令和8年2月10日に開催



【連絡会開催状況】

伝承ツーリズム連絡会【参加メンバー】

ANAセールス(株)、(株)近畿日本ツーリスト、(株)JTb、
ツアー・ウェーブ仙台、日本航空(株)東北支店、名
鉄観光サービス(株)、トラベルe旅.Com、(株)日本旅
行東北、東武トップツアーズ(株)、東北ちゅらトラベ
ル(株)、東日本急行(株)、(株)みちのりトラベル東北、
(株)タケヤ交通、宮城交通(株)、宮城県観光連盟、東北
地方整備局企画部、他

1. 教育関係者招請旅行（5月20日(火)～24日(金)）

昨年、学校訪問した台南市の高校4校と追加の2校の6名の先生方を4泊5日の行程で東日本大震災の震災伝承施設等を案内。震災伝承施設、高校訪問、観光施設等を案内し、伝承施設の防災教育における意義や魅力を紹介した。

【4泊5日行程】 仙台空港＝多賀城祉見学（復元南大門）＜松島泊＞松島語り部クルーズ＝松島高校生案内の松島見学＝南三陸311メモリアル＝南三陸町教育旅行セミナー＜南三陸町泊＞語り部バス＝ワタミオーガニックランド＝高田松原津波復興祈念公園＝東日本大震災津波伝承館＝陸前高田市教育旅行セミナー＜花巻温泉泊＞世界遺産平泉＝一関一高等学校訪問＝震災伝承ネットワーク協議会表敬訪問＜仙台泊＞仙台朝市見学＝仙台城址＝まちなか散策（一番町）＝仙台空港



【奇跡の一本松 訪問】

2. 学校向けの震災伝承施設説明会

高校生向けの教育旅行に震災伝承施設を活用していただくために、台南市と高雄市の高校の教育旅行担当の先生に対して、東日本大震災の震災伝承施設の説明会を実施。



【説明会開催状況】

- 1)開催日 2025年11月6日(木)13:30～16:00
- 2)場 所 国立臺南家齊高級中等學校 科學實驗大樓2樓TED講堂
- 3)参加校 18校(台南市9校、高雄市8校、嘉義市1校 33名参加)

3. 教育旅行セミナー

東北観光推進機構主催の「日本東北遊楽日・教育旅行セミナー」に参加し、震災伝承施設の特徴やみどころ、意義や役割等について説明し、教育旅行における震災伝承施設のプロモーション活動を行った。

1)開催日 2025年12月5日(金) 13:30～

2)場 所 台北晶宴 民権館 第八劇場

3)参加団体

台湾：47団体（学校関係者、教育旅行関係者、教育旅行者等）

日本：18団体（東北7県、自治体、DMO等）

イ

小中学校向け防災学習（出前授業）

この出前授業は、東北6県と新潟県の小中高校を対象とした「TOHOKUわくわくスクール」(東北活性化研究センター主催)に、企業・団体等が実施できる授業内容を登録し、希望した学校に出向いて授業を行うもので、毎年、この制度を活用し、出前授業を行っている。

■小学校、中学校各1校からの依頼を受け、防災学習としての出前授業を実施

- ・ 9月11日(木) 新潟県新潟市立有明台小学校 6年生 36名
- ・ 10月3日(金) 宮城県登米市立佐沼中学校 1年生 128名

出前授業の概要

●有明小学校では、自然災害の種類や東日本大震災・能登半島地震の概要を紹介した後に、日頃から出来る自然災害の備えや、「自助・共助・公助」の話をを行い、その後に避難所の狭い空間を体験してもらい、災害伝承の次世代につなぐ大切さを考えてもらいました。

●佐沼中学校では、学校全体で行われた総合防災訓練の一環として、1年生の防災教育を行いました。はじめに、東日本大震災の概要や「自助」「共助」「公助」について説明し、東松島市出身の語り部・武山ひかるさんの体験談を聞いてもらいました。その後に、新聞紙でスリッパを、A3用紙でお皿を作る体験を行い、最後には避難所での困りごとについて、みんなで意見を出し合いました。



【有明台小学校の授業状況】



【佐沼中学校の授業状況】



ロ

インフラ語り部

- 東日本大震災における震災対応と復旧・復興の体験、災害時における復旧等の経験を語り継ぐため、企業や行政等のOBを対象とした語り部の取り組みを令和2年度から実施。令和7年まで70名が登録。
- インフラ語り部として伝承ロード研修会等において活用予定
- これまで研修会において9回実施
令和2年度2回、令和3年度4回、令和4年度2回、令和5年度1回
- 令和3年度 説明会、スキルアップのための研修会、現地セミナーを実施
- 令和4年度 説明会、現地セミナー（東松島市）
- 令和5年度 説明会、現地セミナー（東松島市野蒜地区）
- 令和6年度 説明会、現地セミナー（女川町）
- 令和7年度 説明会、現地セミナー（仙台市、名取市）



【R7 10/28説明会実施催状況】



【R7 11/26現地セミナー状況】

イ

仙台湾岸エリア復興ツーリズム

【概要】 仙台湾岸エリアは震災後に観光系の施設整備が進むとともに、津波の多重防御施設や震災伝承施設等の防災や伝承系の施設整備が行われ、観光と防災や伝承の学びを体験できる地域の魅力あふれるプログラムとして、インバウンドにも対応できる観光と防災を融合させた復興ツーリズムを提案した。作成したコンテンツは、研修会で活用するとともに、商品化は近畿日本ツーリスト(株)に依頼した。

【造成したコンテンツ】

- ①観光・防災等のコンテンツのストーリー化と多言語化
- ②インバウンド向けの通訳ガイドの育成として、座学の通訳ガイド研修と外国人モニターとした現地研修を実施
- ③周遊プログラムを造成し、モニターツアーによる磨き上げを実施
- ④仙台湾岸エリア復興ツーリズムの見える化として、ファムトリップやSNS等による情報発信や広報を実施



[名取市メモリアル公園
外国人モニターによる現地研修]

【造成プログラム】

JR仙台駅集合9:00 = 仙台港中央公園 = 仙台市深沼海水浴場(防潮堤) = 震災遺構荒浜小学校 = 海岸公園冒険広場 = アクアイグニス仙台(昼食) = 名取市震災メモリアル公園 = 名取市震災復興伝承館 = かわまちてらす関上 = 仙台駅解散



[名取市震災復興伝承館
インバウンドモニターツアー]



[商品化したツアー状況(R8.2.15)]

ロ

震災復興インフラ新図録

【概要】 東日本大震災では、被災後にインフラが特別な目的として新たな効果を果たしたものや、新たな役割や機能が発現されたものがある。また、復旧・復興の過程の中で、多くのインフラが整備され、地域独自のアイデアが発現され、後世に残すべき復興インフラとして認識されているものがある。このような施設、地域への影響は大きいにも関わらず、時間とともに社会に溶け込み、工夫した知恵やノウハウが風化しつつある。そのため、復興インフラが果たした効果や役割、機能について、整理し図録としてとりまとめ、忘れてはならない震災の記録として、保存し、伝承していくために作成した。

【図録の内容と特徴】

掲載した復興インフラについては、3.11伝承ロード研修会において、被災地でしか分からなかった効果や機能など評価が高かった施設を12箇所抽出し、その中から、単なる復旧・復興にとどまらない新たな効果の発現や、施工過程の中で工夫したノウハウを有する施設などを選定し、7つのインフラとして整理し、掲載した。作成にあたって、写真やポンチ絵、断面図などを用いて、見やすさや理解度の向上に配慮した。

【今後の活用方策】 震災の経験と教訓を伝える材料として活用するとともに、施設紹介にとどまらず、地域に与えた効果や知見として、復興インフラの価値を伝えるとともに、今後の研修・教育・観光コンテンツ化など、これからの様々な活動につながる土台になると思っている。

冊子版 図録

A4仕上 / 28ページ / カラー



復興インフラの価値をわかりやすく紹介

Web版 図録

HTMLコーディング
レスポンス対応



PC・スマホ双方で閲覧しやすい構成